

かたらい

49号
2019 春



特別企画 「ライフコースって何だろう？」

目次

- p2 特別企画
 - ① 再就職をライフコースから見てみよう!
 - ② インタビュー「親として、子どもに後ろ姿を見せるために」
(女性の再就職支援を行う ArrowArrow の紹介、p3)
(東小金井事業創造センター KO-TO の紹介、p5)
- p6 国際比較
ドイツの男女共同参画
- p8 小金井で働く
焼菓子工房 フォレスト・ママ 澁谷聖子さん
- p10 男女共同参画シンポジウム
第32回こがねいパレット
多摩3市男女共同参画推進共同研究会講演会

「再就職をライフコースから見てみよう！」

皆さんは「ライフコース」という言葉を聞いたことがありますか？

「ライフコース」とは、人それぞれの生き方を表します。百人百様のライフコースがあります。皆さんは、勉強、就職、結婚、離婚、子育て、介護、子離れ、転職など、それぞれ異なる道を歩いていくでしょう。「ライフコース」とは、そのような、皆さんそれぞれの人生の在り方を指した、総合的な言葉です。

皆さんの中で、「ライフコース」を考えて生きてきた人は多くはないでしょう。ほとんどの方が、その言葉とは無縁に、毎日一生懸命生きてきたと思います。でも、自分の人生をどうしたらよいか悩み、自分の思い通りにならないこともあるでしょう。そのような時は、「ライフコース」という言葉を思い出してください。

自分の人生を考えたとき、これからどう生きるのか、無限に考えられるのではありませんか？「転職したい、もう一度学び直したい、退職したが再就職したい」など、人生にはいろいろなコースが考えられると思います。

今回の「かたらい」では、「ライフコース」から見た再就職について考えていきたいと思います。

思います。再就職や起業といったコースを選んだ方へのインタビュアーや、再就職支援を行っている団体、起業支援を行っている市の事業についても紹介いたします。今回の「かたらい」を通して、皆さんも働くことへの新たな気づきや行動のきっかけにしていただければと思います。

かたらい編集員の考える ライフコース

かたらい編集員の経験から、自分のライフコースについて、率直な考えを聞きました。

私は、結婚後しばらく、大学院で研究をしていました。主婦であると同時に大学院生であることは社会においては珍しかったようで、色々な人から色々な事を言われました。大抵の場合はそれほど気にしなかったのですが、どうしてもモヤモヤを感じずにはいらなかった事があります。それは、「子供は産まなくていいの？」と聞かれることです。また、研究生活に区切りをつけ

当面のあいだ家にいることに決めた頃、知人との会話の中で、しばらく家にいるつもりだと告げると、「家にいるなんて、旦那さんがよっぽど厳しい人なんですか？」と言われました。自分の興味のある分野で働く彼女にとって、私の選択は不思議に思えたのかもしれない。そしてこの時もやはり、モヤモヤを感じました。

それぞれ言われたことは全く異なるにもかかわらず、二つのモヤモヤの根っこは同じであると、漠然とですが感じていました。

こうした思いを抱えながら、「ライフコース」という言葉に出会いました。かつて私が感じたモヤモヤは、自分という人間の全く個人的なライフコースを、社会の大多数の人たちのそれと十把一絡げにして扱われる事に対する、モヤモヤではなかったか。いや、「社会の大多数の人たち」のライフコースだって、その一つ一つを見ていけば、全く同じものはないのかもしれない、そんなことを考えました。

人生そのものに、他者と比較したり社会の物差しで測ったりできない意味や価値がある。誰もがそう感じながら生きられる、そんな社会であって欲しいと願います。

私は、自分のライフコースを想定していません。妊娠を期に仕事を辞め、現在は専業主婦として育児中ですが、

妊娠してから現在まで、たくさんの新しい経験や出会いを経て、たくさんの新しい扉が開きました。地域ボランティアや、日常生活にあふれる社会問題、行政の無責任な言動への怒り、学生時代の学歴社会的な発想からは思いつかなかった楽しそうな仕事など、いつか関わっていききたいものばかりです。けれど、今は結局、社会と関わるモチベーションも子どもによります。子どもの成長と共に、私の関心も移っていくことでしよう。その時々で、生き方を柔軟に変えられるよう、思いつく下準備だけはしていこうと思います。

「わたし、これから先どうやって生きていきたいんだっけ？」

子育てに追われる日々の中、家族が寝静まった夜中にふと考えることがあります。すると、あまりの先の見えなさに今後の自分の人生に対してすごく不安を覚えます。

原因を考えてみると、いくつもあるように思えた人生の選択肢が、実際は限られているように感じられることでした。

わたしにはもうすぐ一歳になる子があります。子育てで一度離職してしまうと、いざ復帰しようと思った頃には正社員としての再就職が難しくなっている現実を知っています。それゆえ、何としてでも保育園に預けようと奮闘するお母さんがたくさんいることも知っ

ています。

ですが、産後すぐに働きたい人、しばらくは自分の手で育てたい人、お母さんが10人いれば10通りの考え方があります。そしてそれぞれの選択がもつと尊重されていいはずだと感じます。

何からも急かされることなく、自分のタイミングで選んだ生き方がきちんと肯定される世の中になっていくように願っています。

■ライフコースの考え方

自分はどうのような人生を歩みたいのか考えてみると・・・

(例)

50代	40代	30代	20代	
親の介護 …	勉強し直す	起業 再就職または転職	出産・育児により退職	就学・卒業 就職（雇用形態はさまざま） 結婚

これはあくまで一例です。これ以外にもいろいろな選択肢があるのではないのでしょうか。

編集委員からは、さまざまなお考えが出されました。皆さんも、ご自身にどのような「ライフコース」があるのか考えてみませんか？



NPO 法人 Arrow Arrow

「結婚をしても、出産をしても仕事をしたい女性」、「女性社員を活用したい企業」へ支援を行っている NPO 法人 ArrowArrow の事務局長・海野千尋さんにお話を伺いました。



・どのような支援を行っていますか？

現在、ArrowArrow では、主に以下の3つの事業を行っています。

①産休！ Thank you！プログラム

ライフイベントを迎えた社員に働き続けて欲しいと考えている中小企業に、どのようにしたらうまくいくのかコンサルティングし、トータルサポートするプログラムです。中小企業が産休・育休の取得などの第一例をつくることで、働き続けたいと考える女性の環境改善につながります。

②社員！ Shine！

女性社員に企業で長く働き続けてもらうにはどうすればよいか、仕事と子育ての両立に関する不安を解消し、女性社員の未来に輝きをプラスする、女性社員への研修事業です。

③ママインターンプロジェクト

ライフイベントのため仕事から離れた女性に、再就職への一歩を踏み出すきっかけを持ってもらうためのプログラムです。最初に3日間の講座を受講し、子育てをスキルととらえて、子育て中にどのようなスキルを培ってきたか、また再就職への不安を言語化し可視化することで、働くモチベーションを上げていき、インターン（職場体験）を通じて働く意欲や自信を取り戻します。地域で働きたい女性と、人手不足の中小企業とをマッチングさせ、地域の雇用活性化につなげるプロジェクトでもあります。

・ママインターンプロジェクトはどのような方が利用されていますか？

妊娠・出産・子育て・介護などのライフイベントを機に退職し、その後、社会復帰をしたいと考えていても、働くことに不安がある女性などが利用しています。

・再就職で大切なことは何でしょう？

企業は、人材が不足していて、週2、3日程度の勤務や短時間でも働いてほしいなどの要望はありますが、これまでにない働き方を作るにはどうすればよいか不安があります。企業にとっても、働き方の選択肢を増やすことが会社を存続していくために重要になってきています。働きたい女性は、自分がどのように働きたいのか、今後どのようなキャリアを作っていきたいのかを企業に伝えていくことも大切です。

(孤方)

「親として、子どもに後ろ姿を見せるために」

大学卒業後に就職し、結婚後、専業主婦として暮らしていた澤田純子さん。育児の中で人生の転機が訪れてから、自分なりの生き方を追い求め、自身のライフコースを築き上げてきました。

編集委員（以下、編）：澤田さんは、専業主婦として育児をする中で、学習塾を立ち上げられた経歴をお持ちと伺いました。

私が大学を卒業して就職した時代は、男女雇用機会均等法が制定される前で、職場には今よりずっと男女差別がありました。大学卒業後、企業に就職しましたが、仕事は学歴も、その会社である意味もないものでした。社会への不満を持ちながら、就職して早々に、結婚を理由にして辞めました。いわゆる寿退社ですね。

それから3人の子どもにも恵まれ、ずっと専業主婦として暮らしていましたが、ある日のこと、中学生になって反抗期を迎えた長男に「せんべい食ってテレビ見て過でしているヤツに言われたくねえ！」と言いつ返されまして。決して、文字通りの怠惰な生活をしていただけではありませんが、長男の目には、何もなしていない母親に見えていたのだと痛感しました。その場で「働こう」と思い、その日のうちに個別指導塾の講師に申し込みました。そして、運よく



採用して頂きまして、個別指導塾で講師の経験を積むうちに、塾の立ち上げに至りました。

中高時代の親友が「埋もれて終わる人じゃない」と励ましてくれて、「誰かの役に立っているという実感のある仕事をしたい」という気持ちで、退職したときから燻^{くも}っていたことも、仕事に飛び込む後押しをしたと思います。社会では、大学卒業当時の男女格差がかなり改善され、

女性でも総合職として業務に携われる時代になってきたことも、気持ちを前向きにさせてくれました。

編：既存の塾で働くことから、個人で塾を立ち上げて軌道に乗せていくには、大きなパワーや才能が要るイメージですが。

狙って事業拡大をしたのではなく、塾の展開として自然の流れでした。私が、塾で英語講師を始めたことを知ったママ友から「うちの子にも英語を教えて欲しい」と頼まれまして、塾講師とは別に、自宅でも教えることになりました。口コミで広がり、生徒の人数も増えていった中で、「数学も教えてもらえないか」と相談を受けました。私に数学は教えられないと思いき、個別指導塾で知り合った学生の数学講師に頼んだところから、塾の発足となりました。当初は自宅の一角を塾に改造していたのですが、その後も口コミで生徒が増え続け、講師を増やして駅前テナントを借りるまでに拡大しました。

難関校の受験対策を求める生徒には、受験に強い大手塾があります。私たちの塾は、学習に限らず、学校での悩みや親子関係などにも、家族のように親身に寄り添いたいという方針でした。この方向性が、生徒さん親子のニーズに合致したことから、集客のための苦勞をすることなく、軌道に乗せることができたのだと思います。塾を卒業した生徒が、「ここの塾で働きたい」と、

講師やお手伝いに戻ってきてくれるという循環も、いっそう家庭的な雰囲気を生み出した。その一方で、拡大しすぎると、ひとりひとりに寄り添うことが難しくなると感じたので、生徒が一定数に達したところで、新規募集を抑える方向に転換しました。生徒からの悩み相談については、私自身が息子の反抗期に重ねた苦勞を、生徒の役に立てることができたと思います。

編：反抗期にご苦勞されたとのことですが、塾経営との両立は困難だったのではないですか？

私生活では本当に、子どもたちの反抗期で苦勞しました。特に、長男の反抗期は凄まじくて、中学受験で入学した中高一貫校を、不登校になった末に、高校1年で勝手に辞めてきて、それから半年間は部屋に引きこもっていました。息子の父親たる夫は、海外赴任で不在だったので、全ての不満を母親たる私にぶつけていました。

そんな精神的に辛いときには、「仕事に行かなければ」という気持ちで、生活をコントロールする支えになって、「頑張ることができました。一緒に塾を立ち上げた、数学講師の学生も、長男の「お兄さん」となってよく助けてくれました。父親が不在がちな分、良き相談相手になってくれました。彼が「今後の人生の選択肢が広がるから、高校は卒業した方がいい」と助言をしてくれたおかげで息子は、1年遅れですが高校に入り直すことができました。



こうした経験があったから、生徒が反抗期に抱える親子関係の悩みや、不登校に通じるような学校に関する悩みについても、実体験に基づいて伝えることができました。仕事が子育てを支え、反抗期での苦労があったからこそ、仕事に活かすこともできて、両方を頑張ることができたのだと思います。そういう意味もあって、私にとって両立は困難ではなく、仕事と子育ては支え合う関係でした。

編…お子さんに後ろ姿を見せるために始めた塾講師でしたが、お子さんが独立されたあとも続けられますか？

長男は大学を卒業し、今はなんと学校の

教員になっています。私や塾講師の仲間にもまれていたことから、教育方面に興味を持ったようです。一番下の娘も、昨春に就職し独立しましたので、私にとって現在は、これからの自分自身の人生を考えるタイミングだと考えています。

子どもに対しては、母親としての後ろ姿は見せ終わり、これからは、ひとりの女性としての姿を見せ続けたいと思います。

今後は自分ももっと英会話ができるように、留学もしてみたいという夢を抱いています。講師としては、マンツーマン主体だったので集団塾でも教えてみたいですが、今まで目の前のことを一生懸命こなしていくうちにこやしとなった経験を生かせることは何なのか、次の夢に向かって準備中です。



取材を終えて

人生の道筋を、かた苦しく考えすぎず、けれども目の前の目標には一直線に頑張りながら、独自のライフコースを生きてきた澤田さんは、自分の人生を生き切っている自信で内側から輝いているようでした。これからの「女性の生き方としての後ろ姿」を、私たちにも見せて頂きたいです。(田中)

KO TO

東小金井事業創造センター

小金井市では、起業家の育成および市内定着の支援により、地域に根差した産業振興を図るための拠点として、平成26年4月に東小金井事業創造センター「KO-TO(コート)」を開設しました。

事業者が拠点として利用可能なSOHO・インキュベーション施設として個室、シェアスペースなどの利用、事業化サポートや育成プログラムなどのメニューも用意しています。



<施設概要>

小金井市梶野町 1-2-36
JR 中央線「東小金井」駅 徒歩約 5 分
TEL 0422-31-2040
URL <http://ko-to.info/>

国際比較

ドイツの男女共同参画

2010年10月〜2018年10月まで、延べ8年間をドイツで過ごされた佐々木太一さん・裕子さんご夫妻に日本とドイツ、それぞれの国の良さや考え方の違いを伺いました。

ドイツに行かれた経緯

自動車関連商品を扱う会社で、部品の製造・販売を行っている佐々木太一さん。当時日本で所属していた海外営業部で、ドイツ支店への赴任の話が持ち上がり、ドイツへ行くこととなりました。

Qドイツでの生活で大変だった点は何ですか？

まず第1に、日曜日はすべてのお店が閉まってしまったため、必要なものをすべて土曜日に買わなければならず焦ります（笑）。

第2に病院の問題です。日本は土曜日でも個人院が午前中に開いていることが多いですが、ドイツは総合病院かつ救急しか対応してもらえません。しかも通常、総合病院は紹介状などがないと受け入れてもらえないため、風邪などの場合はまずかかりつけの家庭医か町の診療所にかかり、さらに詳しい検査が必要な場合は総合病院を紹介されるといった具合です。

そして第3は公共交通機関です。ドイツ人は時間に正確なイメージがありましたが、ドイツ鉄道はドイツ人の中でも悪名高き企業です。遅延は日常茶

飯事、キャンセルも平気でされ、そのアフターケアもほぼ皆無です。

Q仕事面で苦労されたことはありますか？

ドイツ人はとにかく仕事を効率的にこなすことを考えて、仕事より家族といる時間を優先するので、彼らに何かを依頼する場合は、その依頼事項の背景・意義・メリットなどを明確に伝えて納得してもらえないとやってもうえません。また幼少期からの教育でとにかく議論に長けているので、相当な準備をもって臨まないとすぐにやり込められてしまいます。仕事上はプロフェッショナルなスタイルを求め、貫こうとします。そのためか、プロセスを重視し、根回しして進めていく日本



的な仕事スタイルには、あまり理解的賛同を得られませんでした。

Qどんなところにドイツ人と日本人の違いを感じましたか？

ドイツ人はまず、有給休暇をいつどのくらい取るのかを計画し、大体夏は3週間から4週間バカンスに行きます。有給休暇を取ることが当然の権利として確立し、メンバー不在時のバックアップ体制も万全です。日本では考えられないことで、そういうことができる社会になっているところが魅力的でした。



また、男性の育児休暇も社会に浸透しており、私の職場でも100%の確率で取得していました。子育てを夫婦でしっかりするということも素敵だと思いました。ドイツ夫婦は基本的に共働きで、逆に仕事をしていないのが不思議に思われるくらいです。

個人個人が自立していて『結婚』という制度にとらわれず、パートナーとして2人で旅行に出かけたり好きなことをお互いに楽しんだり、日本の価値観と違って、自由に選択できることが普通の社会になっています。

Qドイツに住んで見えてくる日本の良いところはありますか？

一番に挙げられるのは、やはりお店での顧客に対する思いやり・おもてなしです。日本ではお客さんの行動を予想し、これがあったらより快適だろうな、あれがあるともっと喜んでもらえるだろうな、という工夫があちらこちらに存在しています。一方ドイツでは、店と客は対等、もしくはそれ以下の関係で閉店直前にレジに並んで拒否されたことがあります。

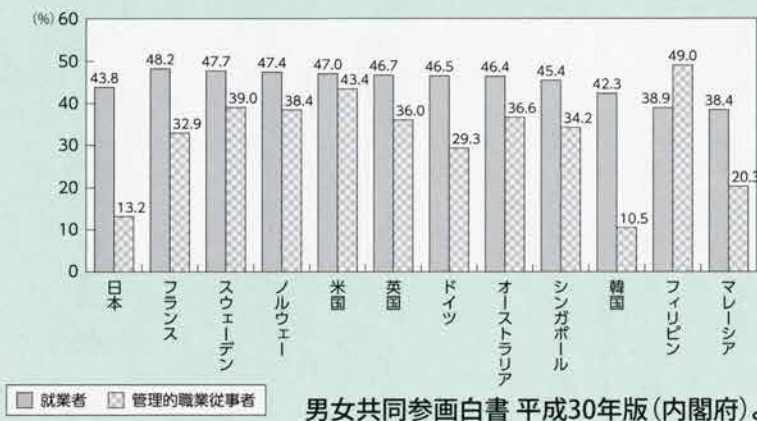
これは言うまでもないかもしれませんが、日本では発達した交通網が正確に機能し、万が一のキャンセル・

遅延にも一所懸命に対処してくれまします。こういったことには本当に頭が下がります。

Qドイツの男女共同参画について教えてください。

ドイツで働き、生活する中で男女差別を感じることは全くありませんでした。女性の社会進出は一般的で、育児が終わってすぐに仕事復帰します。私が勤務していた事務所にも、2度の育

就業者及び管理的職業従事者に占める女性の割合



男女共同参画白書 平成30年版(内閣府)より

休と夫の海外赴任で長期休職をしていた女性がいましたが、最終的に同じ事務所に復帰していました。職場のオフィスビルでは女性と男性が半々の割合で仕事をしていましたし、私の顧客は自動車メーカーの購買部の方々でしたが、大半は女性でした。同僚のドイツ人男性曰く、ドイツ人女性はたくましく頭がきれいな人が多いとのことでした。実際、大統領も女性ですし、女性の医師も多いと感じました。

Q夫婦間で役割分担はありますか？

ドイツ支店の支店長だったドイツ人男性は私の目の前に座って仕事をしていて、その様子を毎日拝見していましたが、よく妻から電話がかかってくるようでした。支店長という役職にも関係なく、お子さんの幼稚園への送り迎えなど夫婦で協力して行っていて、まさに対等でした。私もドイツの夫婦を見習いたいと思います。

支店長の彼が自分で作った(お世辞にも美味しそうとは言えない)お昼ご飯を食べながら、私の妻が作った卵サンドイッチをうらやましそうに眺めて、「これと交換してくれないか?」と聞いてきた彼の姿は今でも忘れられません。

6歳未満の子供を持つ夫婦の家事・育児関連時間(1日当たり)



男女共同参画白書 平成30年版(内閣府)より



取材を終えて

生活環境だけに目を向けると日本は恵まれてるなあと常々思うのですが、労働環境は本当に後進的だと感じました。中々進まない働き方改革ですが、もっと何とかならないものでしょうか。(佐々木)

小金井^で働く

焼菓子工房 フォレスト・マム

澁谷 聖子さん

今回伺ったのは、「フォレスト・マム」代表の澁谷聖子さんです。澁谷さんのお店では、卵・乳製品・白砂糖・小麦粉を使わず植物性100%のビーガン・グルテンフリーにこだわった、マフィンやクッキーなどのお菓子を中心に扱っています。市内各所でのイベントにも多く出店され、広く親しまれているお店です。創業するきっかけや、お店を軌道に乗せるまでの苦労、創業することの男女の差などについて伺いました。

起業のきっかけ

澁谷さんは元々看護師として働いていましたが、結婚と同時に退職し、しばらくは子育てに専念されていました。4人のお子さんの子育てをされていた澁谷さんでしたが、夫が始めた喫茶店でケーキ作りや接客などを担当するようになります。

澁谷さんがビーガン・グルテンフリーにこだわるようになったのは、その頃の経験がきっかけであったといえます。

ある日、喫茶店に訪れた男の子が、ケーキを食べたいと母親にねだりましたが、その男の子はアレルギーがあったため、ケーキは食べられず大泣きしてしまいました。澁谷さんは「お菓子は人を幸せにするものなのに、辛い思いをさせて泣かせてしまった」と感じたそうです。

澁谷さんは娘さんにアレルギーがあったこともあり、その危険性について改めて考えるようになりました。

その後、誰でも安心して食べられるお菓子を作りたいとの思いから、喫茶店を出すケーキのレシピを変更しましたが、自分で専門のお店を持ちたいという気持ちがだんだんと強くなっていったといえます。

起業という決断

家庭の主婦である澁谷さんが一人の力で起業されるという選択は、とても大胆で、決断力、行動力に溢れたものとして映ります。思い切った選択ができたのはなぜでしょうか。

澁谷さんが起業された時、一番下のお子さんが15歳でした。お子さんがある程度手のかからない年齢になったこと、体力やお金の借りやすさには年齢的な限界があることなどを考えると、まさに当時「ラストチャンス」だと思ったといえます。子育てをし、夫の喫茶店を手伝ってこられたそれまでの生活も忙しく充実したものでした。

が、それとはまた違った、他ならぬ自身で見つけたやりたいことを、自分の力でやり遂げたい！と強く思ったそうです。

起業するのに大変だったこと

一つ目は、ビーガンでグルテンフリーのお菓子がまだ珍しかったため、そのようなお菓子が美味しいと理解してもらう必要があったことだといえます。開店当初は、SNSを利用したり、ポスティングなどをして周知に努められたそうです。

二つ目は、お金の問題です。お店を持つための費用は夫に頼らず、自分一人で工面する事を決めた澁谷さんでしたが、当時夫の扶養に入っていた澁谷さんが銀行から多額のお金を借りることは難しかったといえます。けれど澁谷さんの決意は固く、すぐに保証協会に相談に行き、お店の長期的な事業計画を立て始めます。夫の起業を手伝った経験をされていたため、お店のお金



の回し方などについて見聞きする機会や、起業されたシェフのご友人にお話を聞くなどの機会もありましたが、具体的な行動に移ったのは全く独力であったといえます。起業のことをご家族の誰にも相談せず、お店を持てる目処が立って初めて、お話しされたそうです。澁谷さんの熱意と決意の固さを知っていた夫は、黙って見守ってくれたといえます。

オープン後に大変だったこと

無事にお店をオープンさせた澁谷さんでしたが、その後も、一人でお店を担っている大変さを痛感することになります。お店をオープンさせた2か月後、スーパールの催事スペースで出店することになりました。お菓子はとても好評で、澁谷さんは販売の業務に回る暇もなければ寝る暇すらなく、連日お菓子を作り続けたそうです。その時、この仕事はまさに身を削らなければできな

いと感じ、自分でできる範囲で、仕事をす
るようにしたといっています。

働き方

これまでにアルバイトの方に仕事をお願い
していた時期もありました。

初めはアルバイトの方には、お菓子の作
り方から販売まで、幅広い仕事を全般的に
教えていました。しかし、それでは教える
方も教わる方も大変であり、長く勤めても
らえる関係を築くことが難しいこともあつ
たそうです。

この経験から、それまでのような全般的
な仕事を手伝ってもらおうという方法をや
め、事務や片付けなど、そのアルバイトの
方が得意な仕事を任せるようにしたとこ
ろ、とてもうまくいくようになったとい
います。



得意なことを活かしながら一緒に働く
というやり方は、お菓子作りという自分の
好きなことで挑戦をし、「自分を活かす」
ことを大事にされている澁谷さんの考え
方・生き方も通ずるものがあるように思
います。

起業における男女の差

澁谷さんは起業における男女差は「今は
ない」と考えています。

ただ、起業直後は、仕事で知り合う方々
は男性が多く、親しくなるのに時間がかか
ると感じられたそうです。また、起業に限
らずとも今は共働きの方が増えているの
で、男女ともに互いに頼り合えるようにな
ってきた点は自分の世代との違いだとい
います。

自分をどのように表現するか、お金では
買えない生きがいなどをどのように見出して
いくか、そういったことを夫婦で話し合いな
がらやっていくのが理想だと、澁谷さんは
考えています。

起業に必要なもの

起業するのに必要だと思われるものは何
ですか、という問いには、次のように答え
てくださいました。

「誠実であること、無欲であることだと思
います。起業するということと矛盾する
ようだけれど、お金のためではなく、欲張
らずにやっていければ人はきつと理解してく
れると思う。」

そして、次のように付け加えられました。
「起業は、大変だけれど得られるものは本
当に大きい。これから起業を考えている人
は、先人の失敗談をたくさん聞いて、自分
だったらどうするか、と考えてほしい。」

今後の夢

最後に、今後の夢を教えてくださいとの
質問を受けて、澁谷さんは少し考えたあと、
次のように話してくださいました。

「娘が私を乗り越えて、自分の店を開い
てくれたら...そうしたら、私はその店の片
隅でケーキを焼いて、茶飲み友達と、お喋
りしていきたいです。」澁谷さんはそう言
いながらちよっとお茶目にほほえみ、お話を
聞いていた私たちも思わず笑顔になりました。



取材を終えて

取材中に澁谷さんが時折使われ
た、「自分を活かす」「自分を表現
する」という言葉がじんわりと心
に残りました。好きなこと・やり
たいことを貫くために、人はとき
に挑戦しなければならぬのかも
しれません。澁谷さんのお話を伺
い、自分自身の生き方を見つめ直
す貴重な機会を得ることができま
した。(須賀)



読者の声

「かたらい」について読者の方から
意見・感想等を募集しています。

氏名、ペンネーム（記載がない
場合はイニシャルとします。）、連
絡先を明記し、直接、郵送または
ファクスで企画政策課男女共同参
画室へご提出ください。

※一部抜粋して掲載させていただきます
ことがあります。

〈提出先〉

〒184-8504 住所不要

市役所本庁舎2階

Te1 042138719853

Fax 042138711224

いただいた「意見

東京ウイメンズプラザの資料室
などを利用するたびに、「かたら
い」を他市の男女共同参画情報誌
と比較しながら読むのを楽しみに
して、22年になります。

平成12年に「かたらい」は市民
編集委員制を導入し、ジェンダー
専門家が編集委員に加わり、それ
以来、現在に至るまで継続してい
ることに、心より感謝いたしま
す。(Y・T)

男女共同参画シンポジウム

ひとりひとりのワーク・ライフ・バランス

平成30年9月8日(土) 市民会館萌え木ホールにて小金井市男女共同参画シンポジウムを開催しました。

第一部：基調講演 「仕事も育児も充実 自分や家族にとって大切なこと」

講師：瀬地山角さん

第二部：パネルディスカッション 「小金井市がイクボスに取組んで1年」



いない。だからこそ、男性の家事育児時間を増やすことが重要です。

今や、男性一人で、妻子を養える給料を稼げる時代ではないようです。また、自殺の約7割は男性です。これから、女性の就労は男性の命を救い、男性の家事育児は女性の就労を支えます。女性と男性とで新しい社会を構築していかなければならないということです。

たこのこと

です。ただし、意識改革のためにも、継続することが大事であるとも話されていました。

また、市役所では、平成29年7月に市長がイクボス宣言を行い、女性の管理職者の割合の増加、職員のワーク・ライフ・バランスを図るための残業時間の短縮など、様々な取組を行っているとのことでした。

第一部 基調講演

東京大学教授の瀬地山角さんを講師に「仕事も育児も充実 自分や家族にとって大切なこと」というテーマで、男性の子育てで自分の体験を交えて、ユーモラスに話されました。現在、離婚率は3割を超えていて、結婚に関しても、相手に望むことは、男女とも家事・育児の能力が挙げられています。共働き世帯の男性の家事関連時間は週平均1日46分で、女性の4時間54分と比較すると極めて少ない。調査結果から、男性も女性も、女性が専業主婦になるとは期待して

第二部 パネルディスカッション

コーディネーターを瀬地山角さんに、パネリストとして、中島裕昭東京学芸大学副学長、宮浦千里東京農工大学副学長、村越政雄東京都商工会連合会会長・株式会社ムラコシホールディングス代表取締役、小金井市長の4名が登壇されました。

女性の管理職者の割合はまだ低く、様々な支援制度を用意しているが、認知度が低く利用は限られている。大学内に保育所を作ったが、応募者が多く、焼け石に水であつ

シンポジウムに参加して

瀬地山先生の基調講演は面白く、よくわかりました。また、自分の説に沿ったデータにより説得力がありました。

第二部では各人の男女共同参画(ワーク・ライフ・バランス)への取り組みがわかりました。もう少しお話を聞いてみたかったです。(佐藤)



多摩3市男女共同参画推進共同研究会講演会

「楽しく生きるための、仕事との付き合い方」

講師：常見陽平さん

平成30年10月27日(土)に、小金井市、国立市、狛江市の3市で構成する多摩3市男女共同参画推進共同研究会と各市の市民サポーターにより講演会を開催しました。

千葉商科大学国際教養学部専任講師でメディアでも活躍されている常見陽平さんを講師にお招きし、「楽しく生きるための、仕事との付き合い方」をテーマに講演いただきました。

フィンランド流 自分らしく生きるヒント

講師：坂根シルックさん

平成30年11月11日(日)市民会館萌え木ホールにて第32回こがねいパレットを開催しました。講師は東京農工大学リーディング大学院特任准教授を務められる傍ら、文化系タレントとしてメディアでも活躍されている坂根シルックさん。講演では、暮らし方、働き方、子育てなどについて、フィンランドと日本を比較しながらお話ししていただきました。素敵な「フィンランド流」の考え方がちりばめられていました。質疑応答のコーナーも大盛況で、参加者の各々が「自分らしく生きるヒント」をお土産として持ち帰ることができた、そんな講演会でした。



講演内容

フィンランドで

大事にされている価値観

フィンランドでは基本的に、「人は人、自分は自分」という考え方が大事にされます。他人のことにむやみに関与せず、また関与されることを嫌います。また日本とは異なり「建前」の概念がないため、気の合わない相手と無理に付き合うことをしません。けれどそれは、考え方の違う人を否定しているわけではなく、互いの違いを認め合うスタンスに立っているのだといえます。

そんなフィンランドでは、「自分の人生を楽しむ」という考え方もとても大事にされています。一人一人が自分の持つ感性や価値観を大事にしながらか、一度しかない人生を、夢を持って楽しんでいくといえます。

フィンランドは

well-being 国家

フィンランドで大事にされているのは「社会福祉」そのものではなく、well-being（一人一人が幸せに生きられる状態）です。フィンランドが目指してきたのは、年齢・学歴・経済状況に関係なく、誰もが個性として尊重され、自分らしく生きられる社会です。

フィンランドでは「ジェンダー・アングル」を取り入れています。これは、どんな政策であつても男性目線・女性目線の両方から見て良い政策でなければいけないという考え方のことをいいます。この考え方に基づいて、政策は吟味されなければなりません。

フィンランド流・働き方

フィンランドにおける一週間の平均勤務時間は、EUの中でも短く、基本的に残業はありません。これは、フィンランドではメリハリをつけることが大事にされるからだといえます。休日には自然の中で何もせずゆつくりしたり、ノルディックウォーキングをしたりします。また、少しでも体調の悪い時には「シックリーブ」という制度を用いてすぐに仕事を休みます。日本のようにマスクをして無理に仕事をするのは、フィンランドでは考えられません。

就職の際には、学歴以上に経験が重視されます。これまでどのようなことをしてきたのかを見ることで、その人がどれほど積極性を持っているのか、知らないことも引き受けて自分からチャレンジする人であるのかを判断するそうです。就職後に関しても、「5年間同じ仕事をやって変化が無ければ次に行く」という考え方が主流です。常に新しいことにチャレンジし、一生を通して学び続ける姿勢が大事にされています。

フィンランド流・子育て、教育

フィンランドでは、子どもの得意なところを伸ばすことを重視し、子どもに習い事をさせる場合でも、親が何を習うかを決めるのではなく、子ども自身のやりたいこと、得意なことをするための環境を整えるというスタンスをとります。これは勉強においても同じで、日本のようにオール5を取ろうとする教育では、一人一人が自分の優れた面を見失ってしまうのではないかと、シルックさんはおっしゃいます。

授業では、自分で考えることが求められ、一方的に先生の話を聴くのではなく、学んだ内容について文章にまとめたり、みんなで話し合ったりします。

フィンランドでは、子育てにおいても一人一人の個性が重んじられ、親も自分の人生を大切にします。ただ、フィンランドのお母さんたちは自分の人生を楽しみ過ぎていてのとは感じることがあり、シルックさんは「フィンランドと日本の子育てを足して2で割ったらちょうどいい」と思っているそうです。



こがねいパレットに参加して

シルックさんは、「日本とフィンランドのそれぞれのやり方から、自分がいかなと思ったやり方を取り入れて生活してきている」そうです。広い視野を持ち柔軟に考える姿勢が、とても素敵だと思いました。(須賀)

■計画の概要

市では、男女共同参画社会の実現のため、平成29年3月に第5次男女共同参画行動計画を策定しました。

本計画は、計画期間を平成29年度～32年度とし、基本理念を「人権尊重とワーク・ライフ・バランスを軸とする男女共同参画の実現をめざして」と定めています。

この基本理念を具体的に推進していくため、基本目標Ⅰ「人権が尊重され、多様性を認め合う社会をつくる」、基本目標Ⅱ「ワーク・ライフ・バランスの実現した暮らしをめざす」、基本目標Ⅲ「男女共同参画を積極的に推進する」と、3つの基本目標を掲げています。

■平成29年度推進状況調査結果

基本目標Ⅰでは60事業、基本目標Ⅱでは35事業、基本目標Ⅲでは14事業、合計109事業の実施内容等について調査しています。

○具体的な取り組み

〈審議会等女性の参画推進〉

男女共同参画社会の実現のためには、女性が政策・方針決定の場へ参画することが重要です。

また、審議会等の委員構成は、男女に偏りがないように配慮することが必要です。改選時には、できるだけ女性委員の登用を図るなど、さまざまな分野へ女性の参画の促進に努めています。(表1)

〈男女共同参画情報誌「かたらい」発行〉

男女共同参画施策の推進のため、市民編集委員制を導入し、情報誌「かたらい」を発行しています。

平成29年9月に第46号特別企画「多様な働き方としてのテレワーク」、平成30年3月に第47号特別企画「モラル・

ハラスメントを考える」を発行しました。

今後も、市民に男女共同参画に関する情報を発信し、意識啓発を図っていきます。

〈こがねいパレット〉

男女共同参画社会実現のための啓発事業として、講演会等を市民実行委員が企画、運営しています。

平成29年11月23日に「地球を歩いて感じた家族のカタチ」をテーマとした講演会を開催し、こがねいパレットに賛同する市民団体の紹介・展示等を行いました。

「こがねいパレット」は、「いろんな色を持つ、いろんな人たちが自分の色を大切に、出会い、交流し、それぞれの色を認め合い、ときには、いくつかの色がまざりあって、新しい色を織りなしながら、誰もが楽しく幸せに暮らせる豊かな社会をつくりだそう」という願いが込められています。

■男女平等推進審議会からの提言

平成31年2月18日に、市の附属機関である男女平等推進審議会から、本計画の推進及び今後の行動計画策定についての提言をいただきました。

「提言書に記載されている意見（一部抜粋）」

- ▽平成29年度実績に対する評価及び報告書についての意見
- ▽今後の事業評価と進捗管理について

■その他

報告書及び提言書は、情報公開コーナー（市役所第二庁舎6階）、図書館本館、企画政策課男女共同参画室（市役所本庁舎2階）及び市ホームページで閲覧できます。

(表1) 議会・行政委員会等女性の参画率

人数等	小金井市				多摩26市				東京都			
	※平成30年4月1日現在				※平成30年4月1日現在				※平成29年4月1日現在 ※議員数は平成30年6月1日現在			
議会・行政委員会等	機関数	総数	女性の人数	女性比率	機関数	総数	女性の人数	女性比率	機関数	総数	女性の人数	女性比率
議会	—	24	10	41.7%	—	632	186	29.4%	—	126	36	28.6%
行政委員会 (教育委員会ほか)	6	32	8	25.0%	134	792	117	14.8%	9	92	12	13.0%
附属機関 (男女平等推進審議会ほか)	44	552	177	32.1%	894	11,903	3,453	29.0%	53	716	215	30.0%
その他審議会等 (行財政改革市民会議ほか)	12	116	44	37.9%	726	11,641	4,512	38.8%	169	1,715	478	27.9%
管理職の在職状況	—	66	9	13.6%	—	2,717	470	17.3%	—	3,265	640	19.6%

平成30年5月23日に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が公布・施行されました。

この法律は、国会や地方議会の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指すことなどを基本原則とし、国・地方公共団体の責務や政党等が所属する男女のそれぞれの公職の候補者の数について目標を定める等、自主的に取り組むよう努めることなどを定めています。

編集後記

今回はライフコースを中心に考えてみました。これは学者の作った言葉です。皆さんにはなじみがないかもしれませんが、人生100年時代には、このような考え方を取り入れてもよいのではないのでしょうか。
(佐藤民子)

再就職に今一歩踏み出せない。そんな人の背中を思い切り押しします。と笑顔でお話しする姿がとても印象的でした。こちらもパワーを頂く様なインタビューでした。
(孤方知代)

育休を終え、4月から職場に復帰予定です。今号は、まさに今後のライフコースに迷っているわたしにぴったりの一冊となりました。
(佐々木成美)

市民編集委員の役割として、市役所発行の「かたらい」に対し、読者として、または納税する市民としての声を届けるという気持ちを大事にしていきたいです。もちろん、市民に男女共同参画の意義を伝えることも。
(田中映子)

初めて編集に参加しました。「かたらい」を手にとってくださった方が、自身の生き方や考え方を見つめ直すことが出来るような、そんな紙面を作っていければと思います。(須賀佳苗)

今号では「ライフコース」についてインタビューと編集委員の考えを記事にしました。ご協力いただきました皆様、この場をお借りして御礼申し上げます。
(男女共同参画室)

「かたらい」は、公募による市民編集委員が、企画・取材・執筆を行っています。